

総合海洋政策本部事務局職員の現地調査

利尻島	9月23日
佐渡島	10月3日・4日
三宅島、八丈島	10月6日・7日
隠岐諸島	10月19日～21日
壱岐、対馬	10月23日～25日
五島列島	10月17日～19日
種子島、屋久島	10月4～7日

現地調査の結果(利尻)

強み

弱み

水産業

- ・ 高品質のナマコを養殖生産 (3.5~5千円/kg)
- ・ 特定の出荷先への活魚輸送による高付加価値化
- ・ 超低温の急速冷凍施設による鮮度の保持及び出荷調整機能の役割
- ・ コンブ養殖技術の確立及びウニ等の人工種苗生産、放流による生産安定化



- ・ 活魚水槽の容量不足により出漁が制限
- ・ 海水温上昇に伴う来遊魚の変化への未対応
- ・ 過疎化や少子高齢化による後継者不足



農業

(漁業が主要産業)

- ・ 漁業が主要産業であり、農作物生産は自家消費の範囲内
- ・ 北方離島特有の自然条件や農地に適さない土壌等

観光

- ・ 景観や海の幸など豊富な観光資源
- ・ ウニ採り体験など新たな体験型観光への取組み
- ・ 最近ではインバウンドで外国人が増加
- ・ 北海道離島港の旅客施設では、初のボーディングブリッジを設置

- ・ 極端な夏季偏重
- ・ 繁忙期の雇用は、島外の人手に頼らざるを得ない
- ・ 高級ツアーに人気があるが食事処が少ない

その他産業

- ・ 廃校舎を工場として活用した「天然水」の生産
 - ・ 旧海産問屋を利用してギャラリーや交流スペースとして活用
- (地域おこし協力隊らによる取組み)



- ・ 後継者不足等による水産加工場等の閉鎖
- ・ 医療や福祉関係のほか大工や左官業等の職種の高齢化及び担い手不足

現地調査の結果(佐渡)

	強み	弱み
水産業	<ul style="list-style-type: none"> ・好漁場に恵まれている ・マグロは、直接築地に出荷できるルートがある ・定年退職して漁業者になるケースが増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・水揚げしてから船便の関係で翌日出荷になる ・島内生産一のブリは氷見に比してブランド力が劣る ・漁業者は活締め等をせず、付加価値向上に対して努力不足 ・フェリーに冷蔵コンテナ設備がない
農業	<ul style="list-style-type: none"> ・主要三品（米、園芸、畜産）が揃う ・ルレクチエ（洋ナシ）や柿は、追熟時間にあわせて出荷が可能でありブランド化に成功 	<ul style="list-style-type: none"> ・イチゴは足が早く、コールドチェーンの体制ができていないので本土出荷できない ・製乳については、処理能力不足により、一部本土で製乳せざるを得ない ・製乳プラントが古く更新が必要
観光	<ul style="list-style-type: none"> ・鬼太鼓や能舞台など個別にいい観光資源が存在 ・AirBnBや口込み効果で古民家等に長期間民泊する外国人が増加 ・クルーズ船乗客が再度来訪する流れも増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・団体旅行から個人旅行の流れに乗り遅れ ・観光資源は、個別にいい物があるが、ストーリーや方法論が不足 ・冬場の雇用安定のため、通年観光を目指す必要 ・冬場は時化のため、船の運航が安定しない
その他産業	<ul style="list-style-type: none"> ・今後成長が期待される国産ジェット機（MRJ）の部品等の工場が立地 	<ul style="list-style-type: none"> ・後継者不足等により、設備更新等の投資がほとんど発生しない。 ・工業製品（部品等）の納入期限等について、海上輸送がネック



現地調査の結果(伊豆諸島南部地域(三宅島、八丈島))

	強み	弱み
水産業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 黒潮の影響を受ける好漁場に恵まれている ・ 都内の市場、飲食店等へ鮮魚等を直接出荷できる ・ 水産加工品を都内の学校給食に出荷するなど水産加工品の販売、PRを積極化(八丈島) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 船が欠航した場合3, 4日間出荷できず、運賃が高い空路を利用せざるを得ない。 ・ 水産物の鮮度を保つ出荷方法の検討が必要 ・ 加工施設が島内になく、原材料を一旦本土へ移出し、その加工品を改めて移入するため、流通コストが大きく経営を圧迫(三宅島)
農業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海洋性の温暖な気候を活かし、アシタバや花き園芸用の切葉類を生産。また、亜熱帯地域原産のパッションフルーツも栽培 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 花き園芸の生産技術が進んでいるが、流通コストにより、価格競争が不利 ・ パッションフルーツ等のブランド化・6次産業化を進めているが、原材料不足や販売力が課題
観光	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間を通じて、釣り、ダイビング、バードウォッチング等の自然の観光資源が豊富 ・ 漂流・漂着による独特の流人文化があり、文化的価値も高い ・ 高い就航率を持つ航路や1日3便の航空路により、首都圏からのアクセスが容易 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間を通じた観光資源を有するが、冬場の観光従事者の雇用安定化が課題 ・ 繁忙期と閑散期の平準化による通年観光が課題 ・ 後継者不足や設備更新等への投資できず、民宿等の宿泊業者の廃業が進む(三宅島)
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東京都の島(本土から近い)という環境からIターン者が集まりやすい環境 ・ 全国離島で初めての地熱発電所を運用しており、電力需要の約4分の1を賄っている(八丈島) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 約20年毎に繰り返される火山災害で、事業拡大の意欲が低減。また、火山ガスの影響による設備劣化が早い(三宅島)



現地調査の結果(隠岐)

強み

弱み

水産業

- ・ 蓄養向けヨコワ（マグロ稚魚）が漁獲される豊かな周辺漁場
- ・ 日本初のイワガキ養殖技術の開発と、生産拡大による収入の安定化
- ・ サザエカレーをはじめとした島の主要産品の開発や、Iターン者による干しナマコの生産化
- ・ 冷凍装置を活用した首都圏や海外への販路拡大

- ・ 巻き網漁をはじめ、漁獲物の多くが、消費地に近い本土（境港）で水揚げ
- ・ 島内には大きな魚市場がなく、住民や観光客に対する島内流通が課題
- ・ 高齢化が進み、担い手が不足

隠岐のイワガキ

漁業の様子



農業

- ・ 隠岐牛のブランド化と東京への出荷
- ・ 公共牧場での放牧による低コストで良質な子牛生産



隠岐牛の出荷

- ・ 一部の牧野では、長期利用による牛の食用に適さない雑草が繁茂
- ・ 高齢化が進み、担い手が不足
- ・ 知夫村では、タヌキの野生化による食害が発生

観光

- ・ 平成25年度に隠岐ジオパークが世界認定
- ・ シーカヤックなど、豊かな自然を活かした体験型レジャーの提供



国賀海岸

- ・ 宿泊施設の減少によって、多くの観光客を一度に集中して受け入れられない
- ・ リピーターを呼び込むためのメニュー開発が課題

ジオパークツアーの様子



その他

- ・ 海士町においては、都会の若者をワゴン車で連れてきて、学校での出前授業や地域体験をしてもらう交流事業を実施（この成果が切っ掛けとなり、10年間で500人以上のIターン者に繋がった）
- ・ 島前では、公立塾として、隠岐國学習センターを設立し、一人一人にあった学習を支援し、島前高校の魅力を向上

現地調査の結果(壱岐・対馬)

	強み	弱み
水産業	<ul style="list-style-type: none"> ・ あなご、アカムツ等の海産物に恵まれ、マグロ養殖業もブランド化に成功（対馬） ・ 壱岐の漁協は、島めぐりクルージング等の観光にも力を入れており、好評価を得ている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冷蔵庫の維持、輸送などにコストがかかる ・ 磯焼けによる水産資源の被害の軽減が課題 ・ 魚箱を島内で生産が足りず、移入に頼るためコスト増となっている（壱岐）
農業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県下有数の平野を利用して、米、肉用牛、麦、葉たばこ、アスパラガスや麦・米を利用した壱岐焼酎の生産が盛ん（壱岐） ・ シイタケのブランド化に成功し、販路拡大や雇用の増大に積極的（対馬） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 倉庫等の施設が老朽化しており更新に費用がかかる ・ 島で加工できないものは、本土で加工して島に戻すもの（アスパラガスカレーのパックなど）もあり、6次産業化を進めるために加工場確保が課題（壱岐） ・ シイタケ産業は路地栽培が中心であることから、天候によって甚大な被害を受ける可能性（対馬）
観光	<ul style="list-style-type: none"> ・ 韓国からの観光客が大幅に増加、免税店も多く存在（対馬） ・ 宿泊ニーズ拡大を受けて、大手ホテルチェーンが参入（対馬） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 韓国人のみならず国内需要の喚起も必要（対馬） ・ 航空機は風が強いと欠航も多い、時化のために船の運航が安定しない ・ 修学旅行や旅行者が減少しており、個人旅行等、旅行ニーズに対応した観光開発が必要（壱岐）
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 産業分野ごとに部会（任意団体）を設け、団結して課題に取り組める体制ができている（壱岐） ・ 壱岐は、福岡から1時間の距離 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 壱岐の公共施設の多くが老朽化、更新費用が課題



現地調査の結果(五島列島)

	強み	弱み
水産業	<ul style="list-style-type: none"> ・列島間の早い潮流により、赤潮が発生しにくい、養殖業に最適な環境が存在。マグロ養殖業が盛ん ・アゴ(トビウオ)の加工品が人気 	<ul style="list-style-type: none"> ・養殖のエサを地元供給できない。 ・以前はブリの養殖が盛んだったが、価格低迷により廃業者が増加。 ・長崎市の市場へも水揚げしたいが、燃油代負担が大きい ・少量多種で、大口取引ができない
農業	<ul style="list-style-type: none"> ・下五島地域は、平坦な地形で農地が多く、葉たばこ、米、トマトやブロッコリーなどを栽培 ・肉用牛は高値で取引されており好調。IT化、スマート放牧を進めている ・椿の加工品の販売に力を入れている 	<ul style="list-style-type: none"> ・保冷による海上輸送ができない。 ・船が欠航した場合、野菜用冷蔵倉庫が満杯になり、容量が不足
観光	<ul style="list-style-type: none"> ・教会群の世界遺産登録に向けて、観光客は増加 ・小値賀では、古民家ステイ等に力を入れ、富裕層の取込みに成功 ・上五島地域では、急峻な島々が海上に点在し、景観に優れる。 ・民泊を利用した修学旅行の誘致に積極的であり成功 	<ul style="list-style-type: none"> ・ツアー旅行はほとんど島内1泊。延泊してもらうには、観光資源が乏しい。列島内の島、市町の連携が必要 ・大手旅行会社がツアーに組み込めるホテルが限定 ・韓国人をはじめとする外国人旅行客への対応が遅れ ・魅力の発信力が弱い
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・五島うどんのブランド化、海外展開も視野。 	

現地調査の結果(種子島・屋久島)

強み

弱み

水産業

- ・天然瀬礁や黒潮により好漁場を有している
- ・島のネームバリューがあるため、販売に有利
- ・種子島に自生している高級種のノコギリガザミやトコブシの養殖業に民間企業も参入。

- ・外海域に面しているため海況等の影響を受けやすい
- ・高齢化、後継者不足による漁業就業人口の減少
- ・船便の関係で水揚げの翌日に出荷
- ・製氷設備、冷凍設備等の整備・更新が必要

農業

- ・亜熱帯の気候を活かした、たんかんやぽんかん、パッションフルーツ等の栽培が盛ん(屋久島)
- ・温暖な気候と広大な耕地を活かし、安納芋、さとうきびや園芸、畜産を展開(種子島)



- ・高齢化、後継者不足による農業就業人口の減少
- ・鳥獣被害や不安定な気候などによる生産量の減少
- ・フリーザーコンテナやフォークリフト等の施設整備、更新が必要
- ・島で加工できないものは、本土で加工して島に戻すものもある

観光

- ・世界自然遺産である屋久島は国際的にも知名度が高く観光地として定着
- ・種子島にはJAXAの種子島宇宙センターがあり見学者も多い
- ・チャーター機による種子島・屋久島を周遊する観光ツアーが定着化
- ・サーフィン客も多く、定住する人も存在

- ・冬の積雪のため、閑散期対策が必要(屋久島)
- ・滞在型観光などの観光ニーズに対応した体験プログラムの充実などの対策が求められる(種子島)
- ・時化のため、船の運航が安定しない



その他

- ・森林資源が豊富(屋久島)
- ・近年、地杉を地域材ブランドとして製品化し、特定の販売店に出荷(BtoB)

- ・島奥部の森林開発には、大型の木材の伐採、運搬機械が必要(屋久島)